



## 時の記念日はなぜ決められたの

### 日本で最初に時を測った日にもとづく

6月10日は「時の記念日」です。どうして、この日が時間の記念日になったのかを説明しましょう。

日本で初めて時計が使われたのは、天智天皇のころの671年4月25日のことです。このころの時計は水時計で、管で結んだ4つの箱を階段状に並べ、水は順々に漏れて下の箱に落ちます。いちばん下の箱にうきがあり、この高さで時刻を表しました。これは、「漏刻」とよばれました。

この水時計を使った最初の日が旧暦の4月25日で、これを太陽暦に換算すると6月10日になるのです。この日にちなんで、1920（大正9）年に決められました。

奈良の都では、漏刻博士の命令で、1日6回、時刻を知らせる鐘を打ちました。

当時の時刻は、季節に関係なく、1日を十二等分するものでした。漏刻で測った2時間ごと（晨朝・日中・日没・初夜・中夜・後夜）の6つの時を鐘を打って知らせました。

そのころ、朝廷に仕えた人たちの勤務時間は、午前6時ごろから正午まででした。日の出と共に役所に行き、正午の鐘を聞いて役所から帰るように決められていたのです。

### 近江神宮で行われる漏刻祭

滋賀県大津市の近江神宮では、6月10日の「時の記念日」に漏刻祭が行われます。近江神宮の祭神は天智天皇で、日本で初めて漏刻（水時計）を使って時を測った人物といわれており、これを記念して漏刻祭が行われています。

天智天皇が造った水時計（漏刻）にちなみ、境内には、漏刻台と約3200点の時計を展示している時計博物館があります。（監修・青木 国夫）

